

令和8年度 甲府市社会福祉審議会

第1回地域福祉専門分科会

議 事 録

甲府市福祉部総務課

令和8年度 甲府市社会福祉審議会
第1回地域福祉専門分科会議事録

開催日時：令和8年6月19日（金） 午後2時00分～午後3時20分

場 所：甲府市役所本庁舎4階 大会議室

出席委員：丸山正次会長、山田文夫委員、保坂保委員、柄沢真委員、茅野昭勇委員、
高野智代子委員、根津宏次委員、上條司委員、山田弘之委員

欠席委員：日向徳夫委員、穴水美紀委員

担 当 課：【甲府市社会福祉協議会】

向山事務局長、佐藤総務課長、長田交流企画課長、浅川福祉支援課長

【福祉部】

永倉福祉支援室長、小林生活福祉課長、森本長寿介護課長、原田地域包括支援課長

【保健衛生部】

渡辺生活衛生室長

【市民部】

一ノ瀬協働推進課長、鈴木協働推進課係長

【市長直轄組織】

志村防災企画課長

事 務 局：石川福祉総室長、末木総務課長補佐

傍 聴：なし

【甲府市社会福祉審議会第1回地域福祉専門分科会】

1 開 会

2 会長あいさつ

3 地域福祉専門分科会概略説明

4 議 事

（1） 地域福祉推進計画に関する事業の進行管理及び評価について

（2） その他

5 閉 会

○事前配布資料

資料 - 1 令和7年度数値目標設定事業実施状況（地域福祉推進計画）

○当日配布資料

資料 - 2 甲府市社会福祉審議会の概要

資料 - 3 甲府市社会福祉審議会条例

資料 - 4 甲府市社会福祉審議会運営要綱

資料 - 5 甲府市社会福祉審議会地域福祉専門分科会運営要領

委員名簿

座席表

◆会議の内容◆

1 開会

2 会長あいさつ

地域福祉は自分自身に関わっているところが多い。昔は「自助・共助・公助」を三助と呼んだ。この三助に「互助」が加わり、共助を介護保険や社会保険のようなお互いに助け合う制度化されたものとし、互助を身近な人で自発的に助け合う昔の共助に位置付けて、現在では、四助と呼ぶ考えがある。地域福祉は互助を強めることが趣旨となっており、甲府市で実現できるよう、委員の皆様の知見や力添えをお願いしたい。

3 地域福祉専門分科会概略説明

事務局より、当日配布資料2～5により地域福祉専門分科会概略説明を行った。

(質問・意見なし)

4 議事

(委員の出欠状況及び会議の成立について)

- ・委員 11 名中、出席 9 名、欠席 2 名。運営要綱第 5 の 2 の規定により会議は成立。

(1) 地域福祉推進計画に関する事業の進行管理及び評価について

事務局より、令和 7 年度地域福祉推進計画数値目標設定事業の実施状況について説明をした。

【A 委員】

いきいきサロン活動については、担い手不足や利用者の減少などの問題があると認識しているが、A 評価がついたことは喜ばしい。

また、認知症サポーターの養成では、令和 6 年度と比較すると実績値は増加しているものの、目標値が令和 7 年度で 300 人増の 1,200 人、実績値 733 人で C 評価となっている。目標値を変えることはあるのか。また、講座は平成 19 年度から実施しており、講座の内容に変化はあるのか。さらに、認知症サポーターステップアップ講座の周知方法を教えてほしい。

【事務局】

目標値の変更について、当計画は 6 か年計画であり、策定時に設定した目標値で進める方針である。しかし、認知症サポーターの養成講座参加者数は、今年度改定を予定している高齢者いきいき甲府プランの認知症施策推進計画においても、同じ評価指標項目で評価しているものであることから、整合性は図ってまいりたい。

【B 課長】

認知症サポーター養成講座の内容の最近の主な変更点は、認知症の新しい考え方が加わったことである。また、ステップアップ講座は、広報などで周知している。受講者数は、令和 6 年度が 83 人、令和 7 年度が 173 人と増加しており、今後も周知に努めてまいりたい。

【B 委員】

認知症サポーター養成講座の周知方法に工夫はあるのか。
防災リーダーの育成に関して、不在自治会の数について教えてほしい。

【B 課長】

認知症サポーター養成講座の周知方法は、広報に加えてホームページにも掲載をしている。
サポーター養成者をステップアップ講座やボランティア登録を経て、オレンジサポーターとしてなど様々な活動をしていることを周知してまいりたい。

【C 課長】

防災リーダーの不在自治会について、現時点で 507 の自治会が自治会活動をしており、そのうち防災リーダーがいる自治会は全体の約 76%にあたる 386 自治会で、不在自治会は 121 自治会である。登録の募集に関しては、自治会連合会の皆様の協力を得て、講座への参加を要請しているところであり、特に不在自治会には、日程調整等を相談させていただきながら、引き続き依頼をしてまいりたい。

【B 委員】

防災リーダーがいる自治会は増加しているのか。

【C 課長】

令和 6 年度末時点で、防災リーダーがいる自治会は 396 自治会あった。令和 7 年度は、防災リーダーを高齢や転出を理由にやめる方がいるため、380 台とやや減少している。なお、自治会の数自体も変動があるため、単純比較はできない。

【会長】

防災リーダーの登録者数では、自治会数が変動することや、個人の事情により辞退する人もいることから、どういう指標を取るかによって評価が変わることが分かる。不在自治会の数を評価指標として取り入れるかどうかは、今後の評価の議論であり、評価軸が妥当であるか検討の余地がある。

【C 委員】

研修会の回数や登録者数などが評価基準として示されているが、重要なことは、その活動にいかに関わり反映されているのかである。自治会連合会では、防災リーダーの不在自治会をなくすように対応しており、登録者数だけでなく、地域の防災の組織にいかに関わって活動をするかに重点を置いて指導いただきたい。

【会長】

評価基準として、研修の回数や参加者数をアウトプットとして用いるわけだが、参加後の具体的な活動（アウトカム）を測れるとよい。アウトカムの把握は難しいことではあるが、アウトプットの数値化の際には、アウトカムを意識して評価を行ってほしい。

【A 委員】

在宅高齢者等配食サービスの提供について、具体的な利用者数を教えてほしい。

【D 課長】

令和 7 年度末は 165 人。延べ人数だと 227 人がサービスを利用した。前年度比では、利用者は 14 人、延べ人数は 196 人増と、ここ数年は増加傾向にある。また、配食数は、令和 7 年度が 27,858 食、令和 6 年度が 24,809 食と 3,049 食増加した。

【D 委員】

「子どもとの交流活動」を実施する地区について、募集はどこが行っているのか。また、参加者の感想を教えてほしい。

【E 課長】

募集は、シニアクラブ連合会を通じて、各地域のシニアクラブにお声かけいただき、実施いただいている。直接の感想はいただいているが、各地域で継続的に活動をしていることを見ると、「子どもとの交流活動」は世代交流のきっかけとして、意義のある事業であると理解している。

【E 委員】

ある地区で昔の遊びを用いた「子どもとの交流活動」が好評であると聞いている。また、グランドゴルフは当初、子どもの参加が少なかったが、今では家族で参加する例があり、好評である。

【D 委員】

学校を通さずに、子どもクラブとシニアクラブで連携して、活動することも検討していければいいのかなと感じた。

【E 課長】

「子どもとの交流活動」はシニアクラブ連合会を通じた活動になっているが、総合授業などでも展開している学校もあると聞いている。また、子どもたちが世代交流や昔の遊び体験の機会を多く持てることが重要であると認識しており、今後もシニアクラブ連合会と協議しながら進めてまいりたい。

【会長】

今回の会議で議論された様々な意見に関して、社会福祉協議会や甲府市担当部署に共有するようお願いしたい。議事 1 に関してご意見がないようなので、次の議題に進んでよろしいか。

【各委員】

(意見なし)

(2) その他

(委員及び事務局ともに意見なし)

5 閉会